

第4学年算数科「どんな数でも同じように筆算できるかな ～1けたでわるわり算の筆算～」

学習指導者 好井 佑馬

割る数が一桁の除法の暗算や筆算の仕方について、図と関連付けながら理解した後で、「どんな数でも同じように計算できるのか」という問題を見だし、単元を通して、様々な数や桁での計算に取り組むことで、除法の暗算や筆算はどんな数でも被除数の大きい位から位ごとに計算し、「たてる」、「かける」、「ひく」、「おろす」の繰り返しであることを理解していった。

2桁÷1桁の筆算を速く正確に計算しよう

3桁÷1桁の筆算は同じように計算できるのか考えよう

ひいた数や商に0がある場合の筆算は同じように計算できるのか考えよう

4桁以上の数÷1桁の筆算は同じように計算できるのだろうか

【見通し】

「3桁÷1桁、4桁以上÷1桁の筆算は同じように計算できるのか考えたい」などの前々時までに見いだした問題を確認し、前時にまだチャレンジしていないことから、本時の課題を一人一人が設定し、活動の時間配分や活動形態を計画し、解決方法の見通しをもちました。



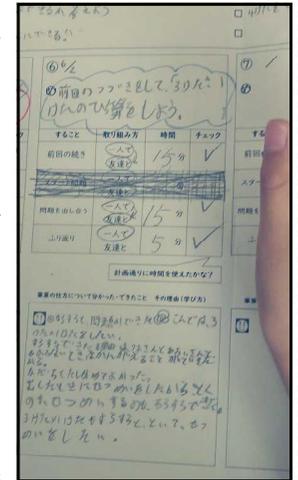
【行動】

それぞれの課題ごとに集まり、筆算手順カードや前時までのノートを参考にしながら、筆算の仕方を考えたり、分からない部分を必要に応じて友達と教え合ったりするなどして、学習を進めていきました。筆算を行った後は、「自分の考えが正しいか確かめる」という解決する方法を想起して、検算を行ったり、筆算の仕方を見直したりしました。その際、友達とも確かめ合いながら自分の考えを見つめていきました。その後、課題に準じて自分で数値を設定し、その問題の解答を作成した後、友達と交換して問題を解き合っていました。



【振り返り】

計画した時間配分や学び方などについて振り返り、筆算の仕方について考えたことを確かめました。また、協働の仕方を振り返る際には、付箋紙を用いて、「ありがとうを伝えたい友達」に思いを記すことで、協働のよさや他者への貢献を感じていました。



成果と課題

○見いだした問題から自分で課題を設定できる単元構成によって、必要感をもって、筆算の仕方を考えられていた。また、友達と自由に関われる環境によって、必要に応じて友達と関わり合いながら、学びを進めることができていた。
 ▲友達との関わりが増えたために、自分の学習に取り組む時間を確保できない子供の姿が見られた。単元を通した子供一人一人の学びを想定し、自分の学習を進めることと友達と学びを進め合うことのバランスをとれるようにしたい。